SURF2026

第 10 回路面性状に関する国際シンポジウム

THE 10TH SYMPOSIUM ON PAVEMENT SURFACE CHARACTERISTICS

路面と社会の相互作用におけるイノベーションの推進

DRIVING INNOVATION OF ROAD SURFACE CHARACTERISTICS AND SOCIAL INTERACTION

セカンドアナウンスメント

2026 年 11 月 9-11 日

東京開催・コングレスクエア羽田

JAPAN ROAD ASSOC.

PIARC JAPAN

JRCA

PIARC

JSCE

1. 実行委員長挨拶

SURF（Symposium on Pavement Surface Characteristics、路面性状に関する国際シンポジウム）は、路面性状に関する最新の研究成果や技術の発表・情報交換を行う唯一の国際学術会議であり、1988年の第1回開催以来、ホスト国の団体が主催し、PIARCが共催してきました。このたび、第10回会議（SURF2026）を東京にて開催できますことを、主催者を代表してご案内申し上げます。本会議のアジア地域での開催は今回が初めてであり、世界各国から舗装分野に携わる研究者、技術者、行政関係者の皆さまを日本にお迎えできることを大変光栄に存じます。

路面は、人と社会をつなぐ基盤であり、その性状は安全性、快適性、経済性、さらには周辺環境にまで大きな影響を及ぼす、本質的な要素です。舗装は社会の移動を支える重要なインフラであり、路面が本来発揮すべき性能を実現する役割を担っています。近年、持続可能性や気候変動への対応、DX の進展などにより、舗装分野にも新しいイノベーションが求められるようになってきました。

今回の会議テーマ「路面と社会の相互作用におけるイノベーションの推進」は、こうした多様な課題に対する取り組みを共有し、議論する場としたいという思いから設定したものです。例えば、代表的な路面性状である平坦性は、乗り心地だけでなく自動車の燃費や救急車の走行速度にも影響し、カーボンニュートラルや人命救助の観点からも重要な指標です。このように舗装技術は社会全体に広い影響を与えており、本会議を通じて多様な立場の皆様から活発な情報発信と意見交換が行われることを期待しております。

SURF2026 2nd Announcement

現在、ICT・AI・センシング技術を活用した新たな舗装管理技術が急速に進展しています。その影響が広範であることを踏まえると、各国が個別に取り組むだけでなく、国際的な知見の共有や連携を強めていくことは非常に有意義です。また、日本の舗装技術は、高温多湿といったアジア特有の気象条件の下で独自の発展を遂げてきました。日本が長年培ってきた経験や技術は、同様の気候条件を有するアジア諸国の舗装技術の発展にも貢献できるものと考えております。

日本には、奈良・京都をはじめとする神社仏閣など数多くの歴史的建造物が現存し、富士山をはじめとした美しい景勝地にも恵まれています。海外からの訪日客も年々増加しており、SURF2026が開催される11月は、暑さも和らぎ紅葉が美しい、観光にも最適の季節です。
本会議への参加と併せて日本各地を訪れ、日本の伝統や文化にも触れていただけましたら幸いです。

本会議が、路面性状に関する技術のさらなる発展と、関係者の国際的な交流を深める場となることを心より願っております。皆様のご参加を、実行委員会一同、心よりお待ち申し上げます。



日本道路協会 SURF2026
実行委員長
菊川 滋

2. PIARC会長挨拶

世界道路協会（PIARC）を代表し、2026年11月9日～11日に日本・東京で開催されるSURF 2026 – 第10回路面性状に関する国際シンポジウムへのご参加を心よりお待ち申し上げております。

このシンポジウムは、道路・舗装の専門家、研究者、道路管理機関、技術者、実務者、産業界のプロフェッショナルなど、産官学を問わず広く参加を募ります。SURFは、あらゆる利用者のための高品質で安全、持続可能かつ強靭な道路路面の実現に尽力する世界的なコミュニティを結集する場です。

2026年のシンポジウムでは、国際コミュニティが知識を交換し、実践的な経験を共有し、道路交通における舗装と表面特性の進化する役割について考察する絶好の機会を提供します。PIARCの使命に沿い、本シンポジウムでは多様な視点を結集し、路面監視・データ収集の新手法、環境に配慮した路面・リサイクル技術、次世代車両・利用者のニーズといった新たな動向を検討するとともに、道路網を形成する歴史的・文化的側面を評価する場も提供します。本シンポジウムへの活発な応募状況は、この分野の活況と、知識共有・国際協力の機会拡大を続けるPIARCのSURFコミュニティとの連携強化を反映しています。2022年にイタリア・ミラノで開催された前回を含む過去のSURFシンポジウムの成功を踏まえ、この第10回開催は、舗装工学と路面管理におけるグローバルな対話の促進とベストプラクティスの推進に向けたPIARCの長年にわたる取り組みを改めて示すものです。

PIARCを代表し、本重要イベントの開催と準備に尽力された日本のパートナーである日本道路協会、PIARC日本国内委員会、ならびに支援組織及び専門家の方々に心より感謝申し上げます。また、本シンポジウムの技術調整を主導するPIARC技術委員会4.1舗装（委員長：マーゴ・ブリエシンク）のリーダーシップに敬意を表します。
2026年に東京で開催されるPIARC会議は、世界中の専門家にとって魅力的で先見性があり、影響力のあるものとなることを確信しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



PIARC 会長
Emanuela Stocchi

3. 論文委員長挨拶

路面は舗装と車両の界面であり，路面と車両は相互に作用します．路面性状は，車両の乗り心地，すべり，燃費，騒音などに影響を及ぼし，逆に，車両は舗装のひび割れ，わだち掘れ，ラフネス，摩耗をもたらします。日本においては，高度経済成長を経て，簡易舗装を含めた道路の舗装率が約83%，国道のほぼ全てが舗装されている今日，人々にとって舗装は当たり前のものであり，正常に機能している限り意識されることはありません。路面は人々の視界にありますが，人々にとって舗装は「見えない（不可視化された）インフラ」なのです。

日本では，舗装の維持管理に要する予算や担い手不足が慢性化し，舗装の劣化が急速に進んでいます。これに対処するためには，舗装の重要性を人々に再認識してもらい（可視化），投資する価値があると認めてもらわなければなりません。そのためには，路面に関する研究は従来の範囲に加え，「路面と社会の相互作用」からのアプローチが重要であると考えます。そこで，SURF2026では，路面が我々の社会・生活・文化にどのような影響を及ぼしたのか，逆に，現代社会が抱える様々な課題（例えば，リサイクル・カーボンニュートラル・救急搬送・自動運転）に対してどのような路面性状が求められるのか，すなわち「路面と社会の相互作用によるイノベーション」をテーマとしました。

2026年5月までに提出された論文（アブストラクト審査に通過したもの）について，TC 4.1の海外委員とSURF2026論文員会の専門家によって査読が行われ，その結果，約160編の論文が採択されました。採択された論文は，日本国内の他に，アジア，欧州，北米，中南米，南米などに及び，国内で開催される国際会議としては海外論文の比率が高くなりました。

SURF2026では8つのテーマについて口頭とポスターによるセッションが設けられ，路面性状に関わる多様でレベルの高い論文が発表される予定です。海外および日本国内から路面に関わる多くの研究者や技術者が東京に集まり，研究発表やディスカッションを通して技術や知識の深化に繋がることを期待します。



日本道路協会 SURF2026
論文委員長
亀山　修一

4. PIARC TC-4.1委員長挨拶

舗装に関するPIARC技術委員会4.1の委員長として、東京で開催される第10回SURFシンポジウム（路面特性に関する国際シンポジウム）に皆様をご招待できることを、大変光栄に思います。

本シンポジウムは、路面性状と、それが安全性、持続可能性、快適性、ならびにインフラ性能に及ぼす影響に関する知識を共有するための、最も重要な国際的フォーラムの一つへと発展してきました。世界各国の専門家による活発な参加は、これらのテーマが引き続き重要であること、そして国際協力の価値を示しています。

PIARC技術委員会4.1は、路面性状に関する課題に長年取り組んできた歴史を有しています。現在の活動期間において、技術委員会4.1は、舗装モニタリング、機能性表層および表面処理、さらにはカーボンフットプリントに関する知識とベストプラクティスの発展に取り組んでいます。路面性状は、これらの課題の中核をなすものです。すべり抵抗性、テクスチャ、騒音、転がり抵抗、平たん性などは、道路交通の安全性、環境性能、維持管理戦略、さらには道路利用者に提供されるサービス全体に直接的な影響を及ぼしています。

本シンポジウムで取り上げられるテーマは、当技術委員会の活動に大きく貢献するものです。それらは、舗装のライフサイクルを通じて路面性状がどのように変化するのか、革新的な材料や技術がどのように性能向上に寄与できるのか、そしてデータ駆動型アプローチがどのようにより効果的な意思決定を支援できるのかについて、私たちの理解を深める助けとなります。SURFで共有される知見は、世界中の道路管理者や現場技術者に役立つ実践的な指針や提言を策定するための私たちの取り組みを、さらに強化することでしょう。

PIARC TC-4.1 委員長
Margo Briessinck



5. 会議概要

開催日：2026年11月　9日（月）　～　11日（水）
会場：コングレススクエア羽田（https://congres-square.jp/Haneda/）
会議公式WEBサイト





SURFとは・・

路面性状に関する国際シンポジウム（SURF)は「Symposium on Pavement Surface Characteristics」の略称で、世界道路協会（PIARC）が共催する国際会議です。道路や滑走路の舗装路面の調査、研究、管理について発表や議論が行われ、1988年から4年ごとに開催されています。主なテーマには、路面性状の点検・調査手法、舗装路面のマネジメント手法、環境への配慮など路面性状に関する基礎的なものから路面が社会に与える影響まで広範囲の課題が含まれます。

回	開催地	開催年	開催月
第1回	アメリカ・ペンシルベニア州	1988	6
第2回	ドイツ・ベルリン	1992	6
第3回	ニュージーランド・クライストチャーチ	1996	9
第4回	フランス・ナント	2000	5
第5回	カナダ・トロント	2004	6
第6回	スロベニア・ポルトス	2008	1
第7回	アメリカ・バージニア州	2012	9
第8回	オーストラリア・ブリスベン	2018	5
第9回	イタリア・ミラノ	2022	9

6. 主催 / 共催 / 後援 / 協賛

主催

公益社団法人　日本道路協会SURF2026実行委員会

共催

一般社団法人　日本道路建設業協会

世界道路協会PIARC

公益社団法人　土木学会

後援

国土交通省

協賛

（一社）日本アスファルト合材協会
（一社）日本アスファルト乳剤協会
（一社）日本改質アスファルト協会
（一社）舗装コンサルタント協会
東日本高速道路株式会社
中日本高速道路株式会社
西日本高速道路株式会社
首都高速道路株式会社
阪神高速道路株式会社
本州四国連絡高速道路株式会社
（一財）土木研究センター

7. 論文テーマ

メインテーマ「路面と社会の相互作用におけるイノベーションの推進」

論文テーマ

- 路面性状の点検および調査手法
- AI を活用したデータ駆動型の意思決定支援
- 環境に配慮した舗装およびリサイクル技術
- 舗装の機能と構造の関係
- 表層材料のイノベーション
- 舗装路面に対する次世代自動車と社会のニーズ
- 自転車道と歩道の安全性・快適性
- 舗装路面の歴史と社会的役割

8. 全体プログラム

※会議公用語は英語ですが、論文発表以外のイベントには以下の通訳サービスが提供されます。

- プレセッション：AIによる自動通訳
- 開閉会式：同時通訳
- ガラディナー：司会進行を逐次通訳

※口頭発表の詳細（論文ごとの発表時刻と場所）およびポスター発表の論文リストは10月中旬にHPで公開予定です。

	11月9日（月）	11月10日（火）	11月11日（水）
AM		9:00-10:30 （ホール、同時通訳あり） 開会式	9:00-12:30 （ホール・ルーム1） 口頭発表
		11:00-12:40 （ホール・ルーム1） 口頭発表	技術展示（ラウンジB他）
PM	12:45-16:30 （ホール、通訳あり） プレセッション	12:40-14:00 （ホール） ポスター発表	12:30-13:30 （ホール） ポスター発表
		ランチ	ランチ
	17:00-18:30（ラウンジA） ウェルカム レセプション	14:00-17:30 （ホール・ルーム1） 口頭発表	13:30-16:20 （ホール・ルーム1） 口頭発表
		技術展示（ラウンジB他）	
		18:20-20:30 （ホール他、通訳あり） ガラディナー	16:40-17:10 （ホール、同時通訳あり） 閉会式

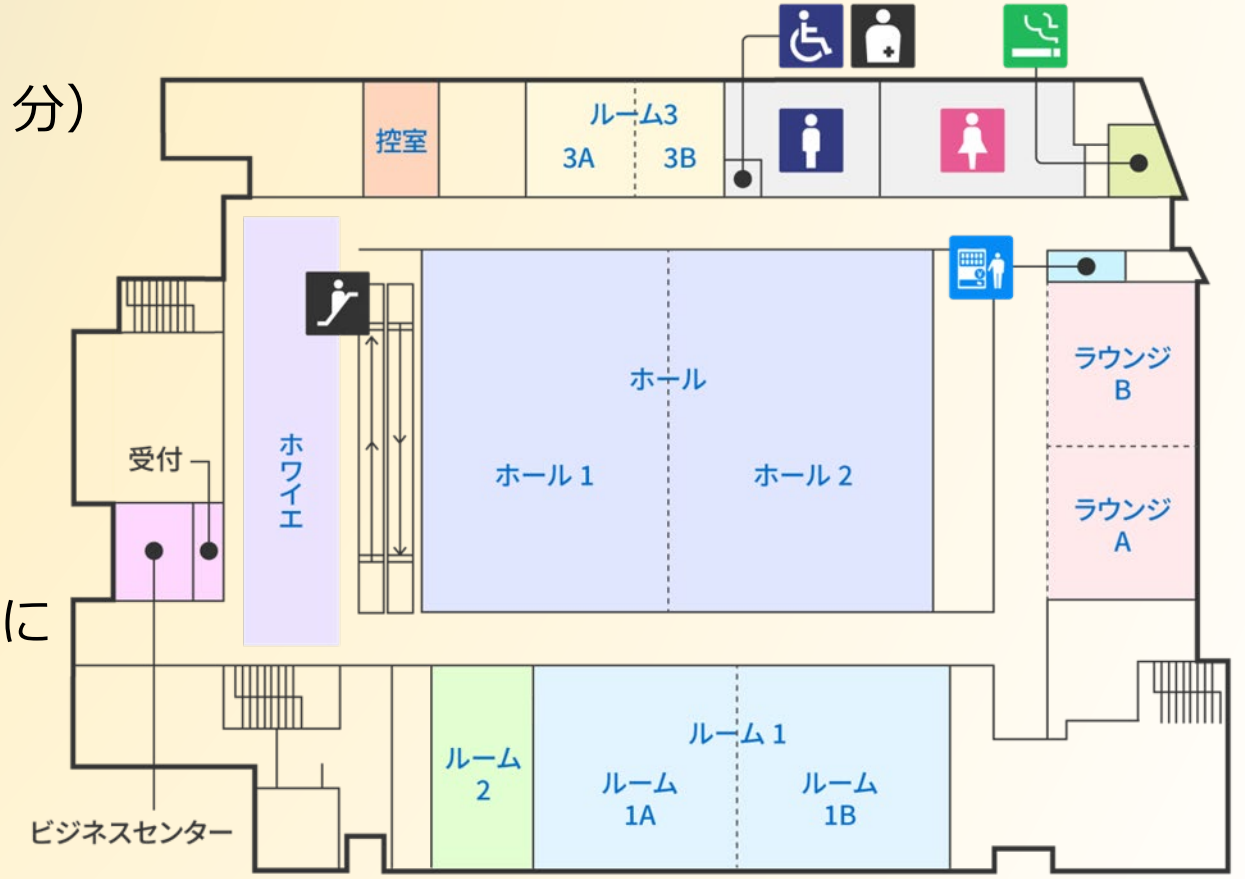
9. テクニカルセッション

テクニカルセッション（論文発表）は以下の2通りの方式で実施します。

○口頭発表
　20分／編（発表12分、質疑応答５分、入替３分）
　場所：ホール、ルーム１
　　（それぞれ分割して4部屋で開催）

○ポスター発表
　場所：ホール後方でランチ時に実施
　ポスターの貼り付けは
　　10日：開会式後
　　11日：午前中のコーヒーブレイク時
　作成するポスターの詳細については10月中旬に
　HPで公開予定です

（テクニカルセッションには他のイベントのような
通訳サービスはありません）



10. プレセッション

- 11月9日の午後、プレセッションを開催します。
- プレセッションは、日本の道路建設に関わる会社からなる日本道路建設業協会が主催し、SURF2026の一環として実施します。
- SURF2026の参加登録者も聴講できます。
- 日本の道路建設・舗装技術に関する最新の情報に接する機会にもなります。
- 使用言語は主に日本語ですが、AIによる自動通訳を提供する予定です。

討議の内容（予定）

テーマ　舗装と社会の関わり－舗装が目指すべき未来

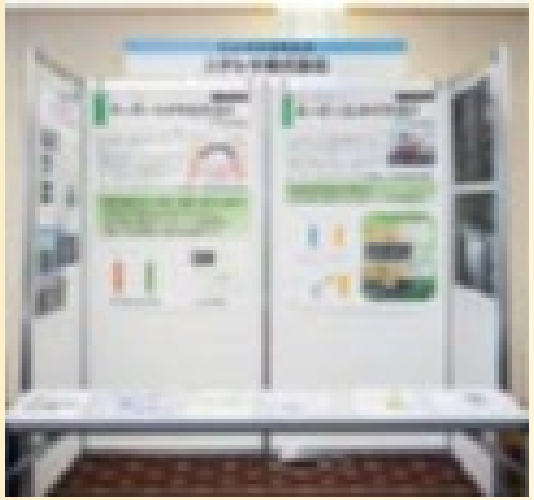
＜メニュー＞

特別講演　舗装と社会の関わり		SURF2026論文委員長・亀山修一
パネルディスカッション	登壇者	日本の産学官の舗装技術者
	討議内容	日本の舗装の技術基準、舗装の状況、路面性状調査技術、舗装再生技術　等

SURF2026の参加者の皆様の出席をお待ちしております

11. 技術展示

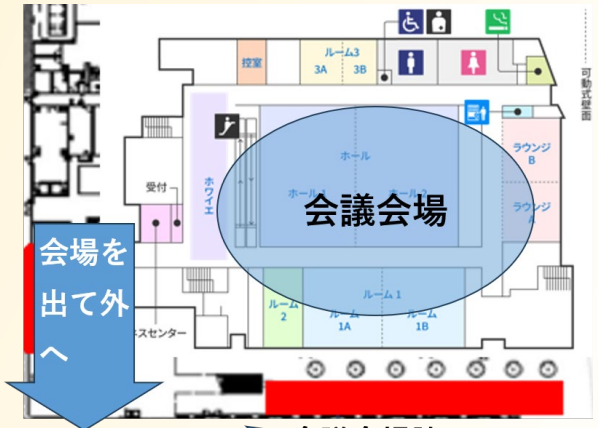
テクニカルセッションに加え、
日本の舗装・路面に関する技術展示も行います。


屋内展示のイメージ


屋外展示のイメージ

屋内でのパネル展示（会場：ラウンジB）
日本が誇る、高耐久舗装、舗装再生技術、
脱炭素に資する中温化技術　など

屋外での実物展示（会場：会議会場脇のオープンスペース）
日本の路面性状測定装置、移動式たわみ測定装置、
AIを用いた路面診断装置　など





SURF2026の開催期間中、２日間にわたって展示します。
ご都合のよい時間帯にぜひお立ち寄りください！

12. ガラディナーおよびウェルカムレセプション

いずれのイベントも会議会場と同じ「コングレスクエア羽田」で開催されます。

ガラディナー
- 日時：11月10日（火）18:20～
- 場所：ホールと各ルーム（着座および立食）



ウェルカムレセプション
- 日時：11月9日（月）17:00～
- 場所：ラウンジA（立食、軽食）

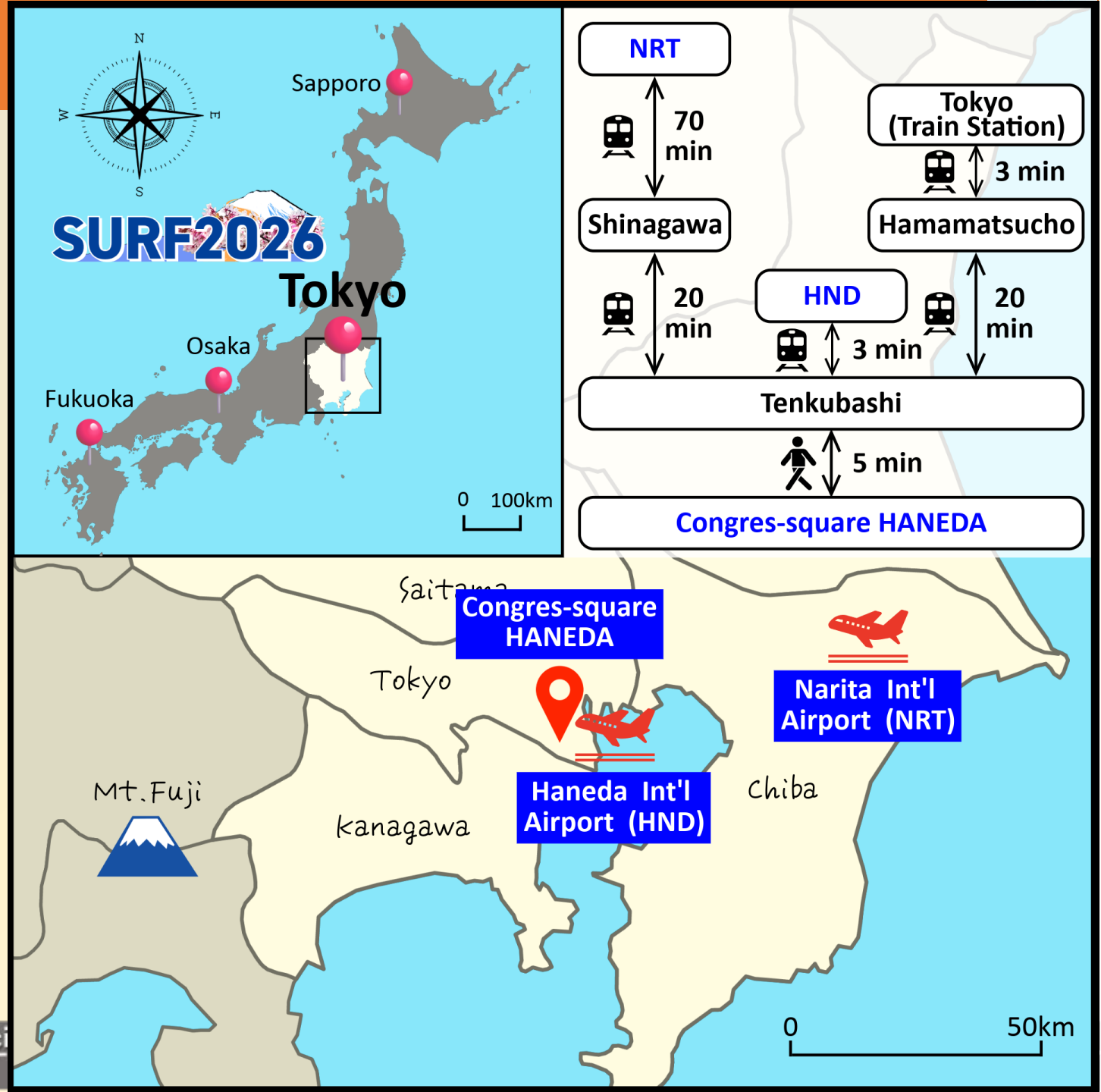


13. 会場アクセス

会議会場
コングレススクエア羽田　ゾーンJ
（https://congres-square.jp/Haneda/）

住所
〒144-0041
東京都大田区羽田空港一丁目1番4号
羽田イノベーションシティ ゾーンJ

アクセス
京急急行電鉄空港線・東京モノレール
「天空橋駅」直結



14. 会議参加費

	一般登録	学　生	同伴者
会議参加費	￥120,000	¥20,000	¥10,000
プレセッション	✓	✓	
開会式/閉会式	✓	✓	
テクニカルセッション	✓	✓	
コーヒーブレイク	✓	✓	
ランチボックス	✓	✓	
ウェルカムレセプション	✓		✓
ガラディナー	✓		✓

※参加登録及び参加登録料の支払いは以下のページでお願いします。
https://pub.confit.atlas.jp/en/event/surf2026/content/registration

15. ホテル案内

A. 京急EX INN (会議会場直結)
https://www.keikyu-exinn.co.jp/en/hotel/innovation-city/

B. ホテルメトロポリタン羽田
https://haneda.hotel-metropolitan.com/

C. エアポートホテルJALシティ羽田東京
https://www.okura-nikko.com/jal-city/

D. メルキュール東京羽田
https://www.mercure-tokyo-haneda-airport.com/en/

E. ザ ロイヤルパークホテル東京羽田
https://www.royalparkhotels.co.jp/en/the/tokyohaneda/

F. ヴィラフォンティーヌグラント羽田空港
https://www.hvf.jp/eng/hanedaairport-grand

